

あいコープ共生会 2017年度活動方針

①生協との交流促進し、あいコープの仲間づくりを共に進めます。

あいコープみやぎ、あいコープふくしまの生協活動に学びます。あいコープみやぎ「2020年ビジョン」実現に向けた取り組みや、あいコープふくしまの「時短、増量、コラボ」活動に協力します。

生協組合員との交流の場では、供給商品についての情報だけではなく、原料事情など生産者が直面している問題や食の背景についても生産者自らが最新情報をつかみより深く説明ができるように研鑽を積み、生協組合員への伝え方も工夫し、共に考えます。特に組合員の関心が高い「市販品との違い」や「農薬、添加物」について繰り返し伝える努力をします。

10月29日 Wa!わぁ祭り、12月3日のあいコープ祭りに参加協力します。あいコープみやぎのイベント出展に協力します。

②組合員のニーズに応え利用促進と商品開発に取り組みます。

あいコープでは新規生協加入の間口を広げるためにも商品ラインナップの強化を図り、まんま通信（商品カタログ）を増ページ（20P→24P）し、アイテム拡充をはかります。商品の優位性を繰り返し伝えて行くために定番コーナー枠を設置します。共生会会員からも市販品との違いや使い方アイデア等を積極的に提案しまんま通信の充実に協力していきます。あいコープの拡大の主要なターゲットである子育て世代のニーズと感覚に応えるような商品開発・商品提案を行います。

③品質管理・原料トレース・表示問題

新しい食品表示法に適した表示の準備を進めます。その裏付けとなる加工原料のトレーサビリティの精度向上を追求します。

食品を扱うすべての業界に対してHACCP義務化の流れが強まり、農業においてもGAPの推進が求められるなど生産者に対する社会的な要求水準が上がるなかで、積極的に品質管理の強化に取り組みます。

④会員間の交流・次世代研修

業種の違いを超えた会員交流を進めます。また、生産者として食の自給と安全に対する責任を自覚し、消費者との顔の見える関係を築くことを自らの事業発展に不可欠のものとして追求していきます。グローバリズムによる圧力、資源エネルギー問題、人口減少、格差拡大など厳しい状況の中で事業を継承していく次世代の生産者・生協職員・組合員の研鑽と交流の場を企画していきます。このような企画の総称を「i 耕塾」として、企画の都度できるだけ広く参加を呼び掛けていきます。

⑤石けん運動、環境保全の取組み

石けん運動に取り組みます。生産者は自らの生産において、ベンダーは自らが扱う商品について、水や資源、身体や環境への負荷を考え、より最適なあり方を目指します。会員自身が自分の暮らしの中で石けん生活を実践する輪を広める運動に取り組みます。幹事会・i 耕塾を中心に石けん学習会に取り組みます。

⑥食の自給と安全

食の自給と安全を生産活動の中で追求します。GMO フリーゾーンの拡大に取り組みます。遺伝子組み換え食品の表示を求めます。

優ぶらんど基準達成にむけて農法研究会の活動を進めます。あいコープの畜産品のレベルアップを進めます。

会員間での地域循環の取組みをすすめます。

⑦脱原発・エネルギーシフト

暮らしと生産環境の安全安心を守るため、原発再稼働反対、六ヶ所核燃料再処理工場本格稼働反対に引き続き取り組みます。放射能汚染廃棄物の処理について、環境中に放射能を再拡散させない処理方法を求めます。宮城県内会員にあいコープみやぎの FIT 電気小売り事業の利用を呼びかけます。

【FIT 電気とは？；固定価格買取制度（FIT 制度）によって買い取られた、再生可能エネルギー源（太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス）を用いて発電された電気のことを『FIT 電気』といいます。】

⑧地域福祉と被災者支援・被災地復興

あいコープみやぎが取り組む地域福祉推進活動（子ども食堂支援など）に協力します。

東日本大震災と福島第一原発事故から6年目を迎えようとしています。被災者や被災地が直面する困難は多様化しつつ、まだまだ問題山積と言えます。私たちは自らの事業を通して被災地や原発避難者を支援する道を考えていきます。共生会としてもあいコープとの協働を通して被災地、原発避難者を含めた被災者への物心両面からの支援を模索します。